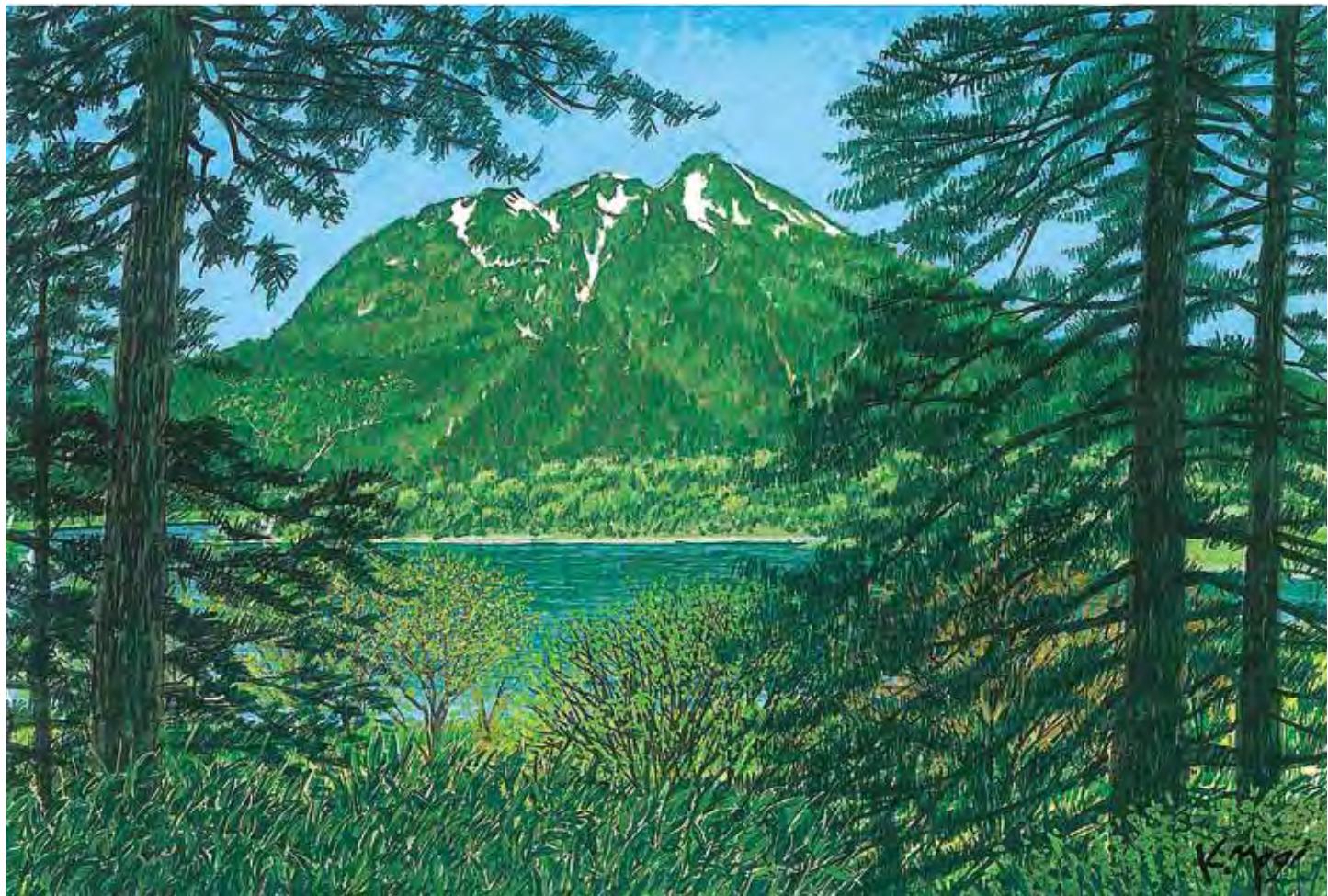


和's YAMATO

(わづやまと)

春号
2012



- NHK大河ドラマ『平清盛』より
- 時代の変革者 平清盛
 - 莊厳華麗なる 巖島神社

茂木紘一画「樹間燧ヶ岳(三平下)

- お客様紹介
- プライムケア桃花林様(福島県伊達市)
- 和's コラム
- 「古きよきもの」

わづやまと
『和's YAMATO』の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water & Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。ヤマトが発信するメッセージです。

瀬戸内海の覇者となり、栄えていった平氏



のどかな風景が広がる瀬戸内海

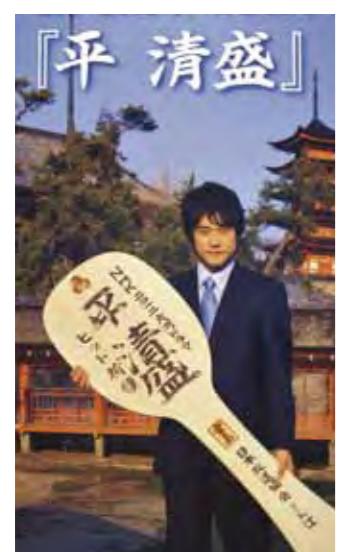


今治市村上水軍博物館

村上水軍で知られる村上氏は、南北朝から戦国時代にかけて瀬戸内海で活躍した一族で、能島・来島・因島の三家からなる。戦国時代には瀬戸内海の広い地域を支配し、その勢力は国内の軍事・政治や海運の動向をも左右した。能島村上家に伝わる古文書など、歴史上貴重な資料が展示されており、水軍関係図書や映像等で水軍のあらましを知ることができる。



博物館入り口にある軍配を持つ水軍の石像



『平 清盛』
放送時間
(NHK総合)
日曜20:00-20:45
(NHKBSプレミアム)
日曜18:00-18:45
(再放送・NHK総合)
土曜13:05-13:50
主演 松山ケンイチ

(左)広島空港ロビーに掲示されている大河ドラマのポスター

前述の、古代より朝廷から、瀬戸内海沿岸の「海賊」と呼ばれた民は、中央政府への貢納物資の運搬を業としていた。瀬戸内の海には潮の流れが速く危険な地域があり、海賊たちは安全な航海のための水先案内人の役目をも担っていた。万葉集にも、天平八年(736年)、朝鮮へと向かう遣新羅使が、瀬戸内海を航海したという記録が残っているが、荒ぶる海の難所の存在が記されている。

古くから海運に携わっていた民たちは、通行する船舶から水先案内人としての手数料や通行料をとつており、航海者が料金を払わない場合は略奪行為にも及んでいたため、朝廷はそれを取り締まるべく平氏を派遣していたのである。

今回の大河ドラマにおいては、清盛が海賊と呼ばれた民の言い分に、大いに共感するシーンが描かれている。海賊たちは、「貧しい民のために通行料を払わない船から略奪を行うのは義であり、民から収奪して虐げる朝廷を悪とする世の中にしたい」と述べている。当時、地方に生きる人々は、中央政権から課せられる税を納めると、皆、苦しい窮乏生活を余儀なくされていたため、海域の通行料は海に生きる部族にとって、無くてはならないものであったと推察される。

清盛は討伐側の立場ではあったが、海賊たちの生活に根差した論理に、真摯に耳を傾ける。その時、一握りの特權階級による貴族政治への疑問が、若い清盛の心に、静かに芽生え始めたのである。

村上水軍小早船
村上水軍博物館の入り口に展示してある小早船の模型で、村上水軍の軍船のうち機動力を発揮した高速艇

この追討活動を通じ、西国各地の武士と主従関係を結び、瀬戸内海での影響力を増していった。保延元年(一一三五)、再び海賊追討令が下され、みごと任務を遂行した忠盛は、捕虜にした海賊を引き連れ京の都に凱旋している。当時十八歳となつていた清盛が、この海賊追討に参加したとする確たる資料は現存しない。し



しまなみ海道の伯方・大島大橋



おおしま 大三島から見た多々羅大橋



海上交通の重要ルート

平安時代の瀬戸内海航路は、荘園制の発達に伴い、物資の運搬や荘園年貢の輸送の動脈として利用が活発になり、加えて大陸との交易の主要ルートになっていた。

大島至近の能島周辺は、潮の流れが激しい



海から見た伯方・大島大橋

大治四年(一一二九年)、清盛が十二歳のころ、父・忠盛は、朝廷から山陽地方の海賊追討を命じられている。忠盛はこの追討活動を通じ、西国各地の武士と主従関係を結び、瀬戸内海での影響力を増していった。

保延元年(一一三五)、再び海賊追討令が下され、みごと任務を遂行した忠盛は、捕虜にした海賊を引き連れ京の都に凱旋している。当時十八歳となつていた清盛が、この海賊追討に参加したとする確たる資料は現存しない。し

かし、成人した清盛が、父とともに海賊退治で大いに活躍したと考えるのも、あながち不自然ではなかろう。

平安時代(十二世紀前半頃)に朝廷が問題視した「海賊」とは、南北朝・戦国時代に名を馳せた「村上水軍」に代表されるように沿岸における有力な武士の軍事組織であった。こうした海賊鎮圧の武功により、清盛の祖父・正盛、父・忠盛は、しだいに朝廷における地位を高め、平氏躍進のきっかけをつくりたといわれている。鎮圧の過程で、正盛・忠

父子は海賊たちを配下に収め、一族の瀬戸内海における影響力をも強化していく。

当時の瀬戸内海は、京の都がある近畿地方と中国大陆との貿易拠点で、中國との玄関口・大宰府を結ぶ交通の大動脈となっていた。瀬戸内海を制した平氏は、海運による経済力ををつけ、朝廷内での地位を高め、貴族社会の中で徐々に強大な権力を得ていくこととなつた。

盛父子は海賊たちを配下に収め、一族の瀬戸内海における影響力をも強化していく。

しまなみ海道

見どころガイド



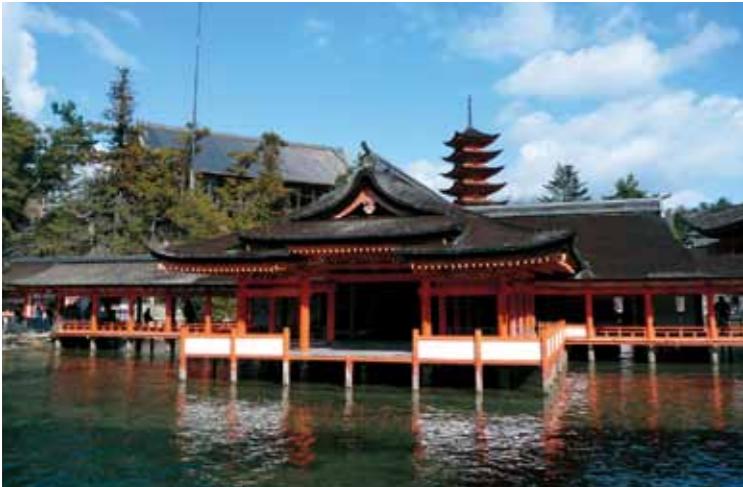
しまなみ海道

広島県の尾道と愛媛の今治を橋で結ぶ有料道路。本州と四国を自動車で往来できるため産業道路としての役割が大きいが、因島・大島・来島など瀬戸内海の島々に短時間で行くこともでき、風光明媚な観光ルートとしても注目されている。



平安の貴族社会から武家社会へと駆け抜けた、時代の革命児・清盛は、雄大なスケールの厳島神社・社殿を造営した。栄華を極めた平家の総大将は、厳島明神に何を祈つたのであろうか――

～平家繁栄の象徴～



厳島神社

瀬戸内海に浮かんだように見える厳島神社(広島県宮島町<厳島>)。瀬戸内海を池に見立てた、大胆で独創的な配置構成がなされている。従来の寝殿造りの建築美はもちろん、廻廊で結ばれた鮮やかな朱塗りの社殿により、日本屈指の名社として知られる。廻廊の幅は4m、長さは275m。



平清盛像
(広島市呉市・音戸の瀬戸公園)



大山祇神社

緑の島が連なる瀬戸内海の大三島に鎮座し、伊予の国一ノ宮に定められているが、創建年代は不詳。平安時代に朝廷から「日本總鎮守」の社号を賜り、日本民族の総氏神として歴代天皇の尊崇を受けている。同社の宝物館には、源氏をはじめ多くの武将から武具が奉納され、全国の国宝・重要文化財に指定された武具の八割が保存されている。そのため、戦の神として武将の信仰を集めていた。

～日本民族の総氏神～



おちのみことおてうえ 小千命御手植の楠

大山祇神社の御神木。境内の中央にそびえ、ご祭神・大山祇神を当地に勧請された小千命によって植えられたと伝えられる。神武天皇(初代天皇)ご東征前の時代(紀元前500年ころ)と推測されている。



ほうきょういんとう 宝篋印塔

大山祇神社の社伝によると、三基の宝篋印塔は一遍上人(時宗の開祖・三島水軍河野通信の孫)が、正応元(1288)年に大山祇神社に参拝した時に奉納したという。



おさじきでん 御桟敷殿

大山祇神社の重要な神事である御田植祭、抜穂祭の時に、神輿が安置される御殿。御田植祭が行われる旧暦5月5日には、愛媛県無形文化財の「一人相撲」が奉仕される。「一人相撲」は、稻の精靈と相撲取りが対戦する神事。



厳島神社全景と五重塔

背後の五重塔は、和様と唐様を巧みに調和させた建築様式で、桧皮葺の屋根と朱塗りの柱や垂木のコントラストが美しい。高さは27.6m。応永14年(1407年)に建立されたものと伝えられている。



反橋 (そりばし)

かつては重要な祭事の際、勅使がこの橋を渡って本社内に入つたことから、別名・勅使橋とも呼ばれた。



能舞台

国内でも唯一の、海に浮かぶ能舞台。厳島での演能は、永禄11年(1568年)の観世太夫の来演がその始まりとされる。



本殿

繊細かつ華麗な切妻両流造りで82坪あり、広さは日本一。桧皮葺の屋根に瓦を積んだ化粧棟のスタイルを取り入れた、寝殿造りならではの様式が特徴。



天神社 (てんじんしゃ)

学問の神様・菅原道真を祀る摂社。朱塗りをされていない建物で、ここで連歌会が催されていた。



大鳥居

海面からそびえる朱塗りの大鳥居は日本一の木造四脚鳥居で、奈良の大仏とほぼ同じ高さの16m。柱回りは約10m、重量は約60t。その主柱は、樹齢500~600年のクスノキの自然木で作られている。根元は海底に埋められているわけではなく、松材の杭を打って地盤を強化し、箱型の島木の中に石を詰めて加重するなど、先人の知恵と工夫によって、鳥居の重みだけで立っている。



大鳥居

遠浅の浜辺に建ち寝殿造りの幹を極めた、独創的な構造の厳島神社は、日本の誇る国宝であり、また世界遺産にも登録されている。

もともと厳島神社の創建は平安時代を遠くさかのぼり、推古天皇の時代(五

三(626)年、三十六歳の時で、父・忠盛が亡く九三年)であったとされる。後に平清

盛が尊崇を始めたのは、仁平三(一一五

三(1168)年平安時代末期、清盛の

援助によって莊嚴華麗な社殿が造営さ

れるにいたつた。完成した同年、清盛は既に出ており、厳島神社の壮大な

社殿に、自らの想う極楽浄土を表現し

よう試みたのかもしれない。



参拝入口。厳島神社へは、宮島桟橋から徒歩12分。拝観は午前6時30分から午後6時まで(季節により変動あり)



客神社

参拝入り口から厳島神社の回廊を歩くと、まず初めにある摂社。摂社の中では一番大きく、厳島神社の神事はここから開始される。祭神として天忍穗耳命をはじめ、天照大神の息子である五祭神が祭られている。



高舞台

本社祓殿前にあり、黒漆塗りの基壇に朱塗りの高欄をめぐらし、前後に階段をつけてある。



時には、大鳥居まで歩いて行くことができる。しかし、潮が満ちてくると大鳥居の根本は海中に没し、近くまで歩いては行けず、社殿や廻廊はあたかも海上に浮かんでいるかのように見える。幻想的な趣を醸し出す、厳島神社のすばらしい景観は、三笠の浜ならではの立地条件に基づくものである。あたかも天上界を髣髴させるような、厳島神社への清盛の並々ならぬ崇敬は、長寛二(1164)年に奉納した装飾写経「平家納経」(33巻・国宝)にも見てとれる。「平家納経」の巻頭文には、清盛直筆で、一門に栄耀榮華をもたらした厳島明神の神威に、深く感謝する言葉が綴られている。

その優美華麗さとともに、世界に類を見ない雄大なスケールを誇り、開放的かつ獨創性にも富む厳島神社は、終生海を愛した清盛の、豪快な人となりを現しているとも言えよう。

後に元亀二(1571)年、厳島神社の本殿は毛利元就によつて改築され、現在の造りとなつた。本殿には市杵島姫・湍津姫・田心姫の宗像三女神が奉られている。

江戸時代に入ると厳島神社は、松島、天橋立と並び「日本三景」として庶民にも親しまれ、平成八年には、ユネスコの世界文化遺産に登録された。朱塗りの建築群が雄大な海原に映える、その見事な景観は、日本人の美意識を世界に知らしめることとなつた。

平家一門の栄枯を見つめた厳島神社は、幾多の時を経て、現在、世界の遺産としての地位を不動のものとしている。

社殿の正面には、極楽の池に見立てた美しい瀬戸内海が広がり、背後には神が降臨する山と崇められていた弥山がそびえる。こうした造りは、古来より自然の中に八百万の神々を見出してきた、日本人独特的宗教観に根差さるものと言えよう。

厳島神社のある浜は「御笠浜」

され、社殿の大部分は潮干潟の上に建て

られていて、月に数回ある日中の干潮

が、自然の中に八百万の神々を見出していく

た美しい瀬戸内海が広がり、背後には

神が降臨する山と崇められていた弥山

がそびえる。こうした造りは、古来より

自然の中に八百万の神々を見出していく

た美しい瀬戸内海が広がり、背後には

平清盛 関連年表

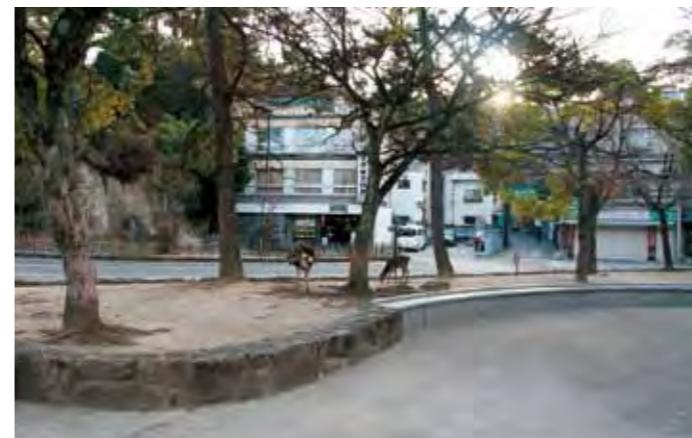
躍進期	1118 元永元	1	白河	清盛生まれる。父忠盛。母は白河院寵妃の祇園女御とする説が有力。
	1131 長承元	14	鳥羽	父・忠盛が備前守となり上級貴族となる。
	1135 保延元	18		父・忠盛が西国海賊の討伐に成功。その功で清盛が従四位下に昇進。
	1139 保延五	22		長男・重盛誕生。
	1147 久安三	30		祇園闘乱事件で罰金刑を受ける。三男・宗盛誕生。
	1151 任平元	34		安芸守となる。
	1153 任平三	36		父・忠盛死去。伊勢平氏の棟梁になる。
	1155 久寿二	38		後白河帝即位。
全盛期	1156 保元元	39	後白河 二条の 二頭政治	保元の乱。その功で播磨守となる。
	1158 保元三	41		太宰府の高官となる。二条帝即位、親政派と後白河院政派の対立。
	1159 平治元	42		平治の乱。翌年、その功で正三位参議(公卿)となる。武家の棟梁となり朝廷の軍事力・警察力を掌握。
	1161 応保元	44		二条帝親政。妻の妹・建春門院滋子が後白河上皇の皇子(後の高倉天皇)を産む。
	1164 長寛元	47	後白河	娘・盛子が藤原基実(二条帝閥白、六条帝摶政)に嫁ぐ。厳島に納経。
	1165 長寛二	48		二条帝崩御・六条帝が即位し、後白河院政開始。
	1166 長寛三	49		摶政・藤原基実死去。
	1167 仁安二	50		従一位太政大臣に任命されるが、3カ月で辞任。重盛が権大納言に任宮。
爛熟期	1168 仁安三	51		六条帝退位。高倉帝即位。清盛病に倒れ、出家し、青蓮と称する。福原に居を移す。厳島神社造営を申請。
	1171 承安元	54		三女・建礼門院徳子が高倉天皇に入内。
	1176 安元二	59		建春門院滋子死去。
	1177 治承元	60		鹿ヶ谷の陰謀。俊寛ら遠島の刑。
	1178 治承二	61		建礼門院徳子が高倉帝の皇子を産む(後の安徳帝)。
	1179 治承三	62	高倉	重盛(清盛の長男)死去、後継は宗盛(清盛の三男)。治承三年の政変で後白河法皇幽閉。
	1180 治承四	63		安徳帝即位・高倉帝の院政。以仁王の令旨。福原遷都。源頼朝、源義仲の挙兵。富士川の戦い。京都遷都。近江攻防。南都焼き討ち。
滅亡機	1181 治承五	64	後白河	高倉帝崩御、後白河院政復活。清盛死去。
	1183 寿永二			俱利伽羅峠の戦い。平家都落ち。義仲上洛。後鳥羽帝即位。
	1184 寿永三			宇治川の戦い、義仲滅びる。源義経上洛。一の谷の戦い。
	1185 文治元			屋島の戦い。壇ノ浦の戦い、平家滅亡。鎌倉幕府樹立。

(セミナー「平清盛に学ぶ栄える会社、滅びる会社、3つの違い」を基に構成)



弥山 (みせん)

宮島の弥山は、大同元(806)年に弘法大師が開いた霊山で、古くから山岳信仰の対象となっている。山頂の一角には御山神社があり、付近には弥山本堂、大日堂などが点在、現在でも多くの参拝者や登山者が訪れる。宮島桟橋から徒歩25分ほどの場所にロープウエーの乗り場があり、山頂近くまで手軽に登ることができる。



毛利元就ゆかりの地・厳島合戦跡

天文20(1551)年、厳島を所領していた中国地方の大名・大内義隆が家臣の陶晴賢の謀反により滅亡、義隆と盟友関係にあった毛利元就は天文22(1553)年に晴賢に対し挙兵した。しかし戦力的に陶軍の方が優勢なため、元就は平地での戦いを避け、厳島に戦場を求め、弘治元(1555)年に島内に城を築き、陶の二万余の大軍をおびき寄せた。元就軍3500の兵は陶軍の本陣を背後から急襲、また大鳥居側の海から元就の三男・小早川隆景の軍が陶軍を攻め、厳島神社周辺で大激戦となり、不意を突かれた陶軍は壊滅した。この合戦に勝利した元就は、戦いで荒れた厳島神社の再建・修復に努め、中国地方統一への第一歩を踏み出した。



清盛神社

清盛の遺徳をたたえるとともに、その靈をなぐさめるために、没後770年にあたる昭和29(1954)年に創建された。厳島神社大鳥居の西側にひっそりとたたずんでいる。毎年3月20日には清盛神社祭が開催される。

(参考資料:NHK大河ドラマ50年 特別展「平清盛」図録)



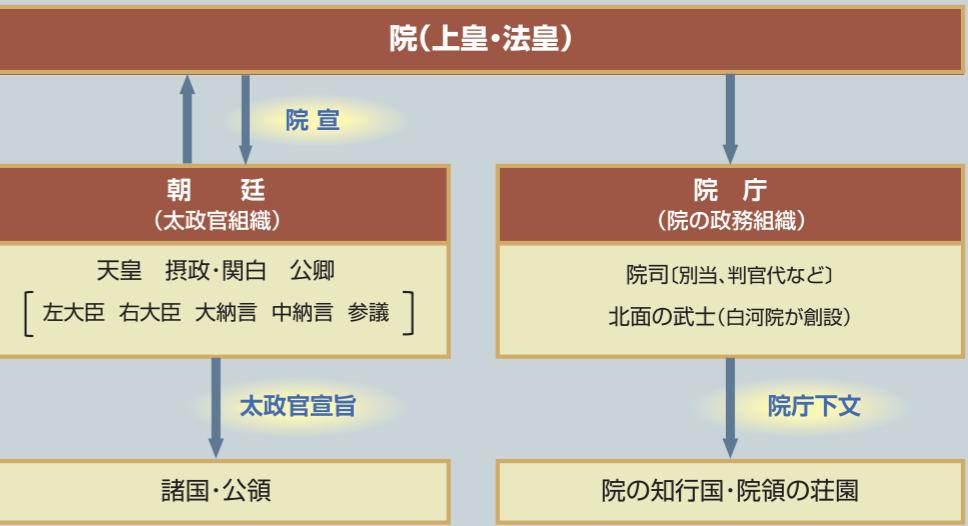
後白河法皇御行幸松

承安4(1174)年に、後白河法皇が参詣された折にお手植えされた松の遺木。明治初期に切り倒された。

桓武天皇 —— 葛原親王 —— 高見王 —— 高望王 —— 国香 —— 貞盛 —— 維持 —— 維時 —— 直方 —— 維方 —— 盛方 —— 熊谷直貞 —— 直美
 (平高望)
 (平高棟)
 伊勢平氏
 時信 —— 時子 (清盛正妻)
 時忠
 親宗
 滋子 (建春門院)

聖範 —— 時直 —— 北条時家 —— 時方 —— 時政

略系図



院(上皇・法皇)

院宣

朝廷 (太政官組織)

天皇 摂政・関白 公卿
[左大臣 右大臣 大納言 中納言 參議]

院庁 (院の政務組織)

院司(別当、判官代など)
北面の武士(白河院が創設)

太政官宣旨

諸国・公領

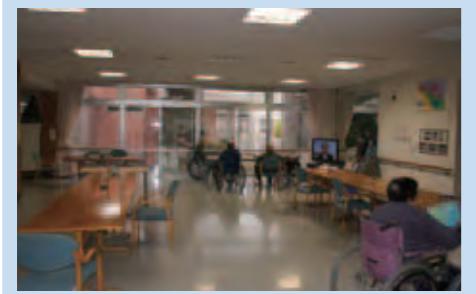
院の知行国・院領の莊園

院庁下文

院庁は朝廷を上回る大きな権威を持つていたが、
その背景には、北面の武士と呼ばれた
武士団の力があった



落ち着いた外観



施設内の様子

(右)副施設長 鈴木様と
(左)事業企画担当チーフ狗飼様

住所: 〒960-0665
福島県伊達市保原町字岡代9-1
TEL: 024-575-0750
FAX: 024-575-0962
病床数: 150床



公益財団法人仁泉会
介護老人保健施設 プライムケア桃花林 様
(福島県伊達市)

お客様紹介

平成22年のある日ヤマトの営業の方が、突然お出でになりました。その時対応した職員から「水を使って冷暖房ができるんだそうです」という摩訶不思議ともれる報告がありました。

半信半疑で数日が過ぎた時に、東京ビックサイトで行われる『蓄熱フェア』のパンフレットが届きました。厨房機器の展示会も同時開催だったので、厨房の責任者と最初にヤマトの営業の方とお話をした職員に参加してもらいました。実際のお話は水と電気によるものでしたが、詳しく聞いてきたお話の中から、その良さを実感することができ導入の計画を始めました。平成22年度も押し迫ったところで決断をし、本格的な検討に入りました。

今回の導入にあたっては国の補助金制度の存在も決め手となりました。導入決定直後、東日本大震災に見舞

われて、私たちの財団法人の各事業所も建物の損壊など大きなダメージを受けました。プライムケア桃花林も認知症専門棟の天井の崩落、浄化槽の陥没など、目も当てられない状況でした。いまでもなく法人の財政状況も厳しくなり、予定されていた事業は一時ストップという中で、どうしても実現しきつた省エネ改修工事だけは許可された形になりました。

介護老人保健施設は定員数に近い数の利用者で稼働させて、初めて利益を生むようなくみです。そうなるとかに経費を削減するかがキーポイントとなります。

開設以二〇年経過し、経年劣化した設備の修繕費、油類の高騰による燃料費の増大などに着目した経費削減の改善策を早急に検討する必要がありました。

折しも国の政策で強力に推進されておりました。

改修した主な内容は以下の4点になります。
①空調設備を蓄熱式に
②給湯設備をエコキューに
③断熱の強化
④照明設備をLEDに

いたCO₂削減の対応策も併せて、大幅な改修工事に着手することができました。

実際の工事では、ヤマトさんの本社は群馬県にあります。が、工事にあたる業者さんは施設内をよく知る地元の業者さんを選んでいただいたことは今後のことのため、大助かりでした。

また工事現場を担当されたヤマトの職員の方々を通して、魂の入った工事を見させていただきました。

工事期間中、現場の見学会や導入さるシステムの職員向け勉強会などを催していました。導入に至った思いを見させていただきました。

改修した主な内容は以下の4点になります。
①空調設備を蓄熱式に
②給湯設備をエコキューに
③断熱の強化
④照明設備をLEDに

①では、空調を従来の油類を使用する方式から、大量の水を利用した電気による蓄熱方式に大きく方向転換しました。これは「大温度差蓄熱空調システム」と称され、温まりにくく冷めにくいという水の特性と、熱対流の上は熱く下は冷たいという温度差を利用した冷暖房の方式であり、夜間の安価な電力を利用して、翌日の昼間に使用する熱エネルギーを蓄えておくことができる

というものです。

さらに地下タンクにある150トンの水は災害時に消火用または生活用水を利用可能となります。

②のエコキュートは新聞やTVなどでも取り上げられ、また既に一般家庭にも普及してきています。正式には「自然冷媒ヒートポンプ給湯器」と言い、油の燃焼が無いため、直接二酸化炭素を排出しないのと、冷媒にフロンを使用していないため、環境に優しい設備となっています。

また、こちらも夜間電力を使用するので施設全体としては一日の使用電力量を平準化することができます。今夏のよ

(セミナー「平清盛に学ぶ栄える会社、滅びる会社、3つの違い」を基に構成)

行する院政を取り入れた。院政の目的は、皇位継承権を藤原摶閑家から取り戻すためであった。院政を行うにあたり、院庁という役所が作られ、その中に武官として「北面の武士」が置かれた。そこに入り込んだのが清盛の祖父・平正盛であった。

平正盛は、下級貴族のため、藤原摶閑

家が仕切る朝廷からは仕事がもらえず、新興勢力の院庁で力を發揮しようとした。院庁の財政を豊かにしたかつて白河法王に、正盛は経済的な援助を行い、出世していく。正盛の経済力の源は、瀬戸内海の海賊を傘下に收め、海運・商業を発展させ、海軍力をも持った

正盛であった。

平正盛は、下級貴族のため、藤原摶閑

伊達氏発祥の地（福島県伊達市）

高子岡城址からの眺望。

中央の白い建物は、プライムケア桃花林を運営する
公益財団法人仁泉会様の病院。



伊達氏発祥の地・高子力岡と丹露盤

伊達氏発祥の地・高子力岡には、現在は「亀岡八幡神社」が鎮座している。亀岡八幡宮は伊達氏の本拠地が変わったたびに遷宮され、政宗の時に仙台城下に遷宮、現在の仙台亀岡八幡宮となった。丹露盤は、高子力岡の頂上にある景勝地で、伊達市中を見渡すことができる。

亀岡八幡神社



高子沼は天正19(1591)年、伊達政宗が豊臣秀吉に伊達郡の所領を召し上げられた折に、金鉱石の精錬所跡を隠すために土手を築いて沼としたという伝説が残っている。沼を囲む小山には金鉱山の坑口が現存し、高子沼の底からは、中世のものと見られる鉱石粉碎用の石臼や廃鉱石が出土している。

プライムケア様周辺の見所紹介



伊達氏の足跡を探る —伊達氏保原地区—

伊達政宗は戦国時代、「独眼竜政宗」としてその武名を天下に轟かせたが、そのルーツが福島県伊達市にある。伊達氏はもともと常陸国(現在の茨城県)の中村氏で、平安時代末期の文治5(1189)年に、中村氏は源頼朝に従い奥州征伐に従軍、その功績により伊達郡(現在の福島県伊達市)を賜り、伊達氏と称するようになったといわれている。伊達氏の初代・朝宗は高子岡に城館を構え、そこに鎌倉の鶴岡八幡宮を勧請(神仏の来臨を請うこと、神仏の分霊を他の場所に移して祭ること)したという。この伝承から、伊達市保原町高子が伊達氏発祥の地とされている。

その後、伊達氏は伊達地方を本拠として勢力を拡大していく、第十五代伊達晴宗が天文17(1548)年に居城を米沢に移すまでの360年余、その居城は伊達地方(梁川、栗野大館など)にあった。伊達政宗は第十七代当主で、慶長8(1603)年に仙台城を築城した。

高子沼



公益財団法人仁泉会

介護老人保健施設 プライムケア桃花林 様 (福島県伊達市)

お客様紹介

うな昼間のピーク電力削減には大きな成果が期待できます。

③の施設の窓は、開口部が大きく暖気や冷気の格好の逃げ場となっていました。その窓ガラスを、より断熱性に優れLow-Eペアガラスに交換しました。これはペアガラスの内側に特殊金属をコーティングした遮熱(夏の日射熱を防ぐ)と断熱の両方の性能が高いガラスです。

また、合わせて1階浴室の脱衣室に断熱材の強化を行い、夏と冬の入浴の環境改善を行いました。

③の改修により、窓や壁からの熱エネルギーのロスを抑えて冷暖房効率をアップした建屋になりました。また、夜間電力で蓄熱した間接的な柔らかな暖気・冷気を昼間に使用するという、体と環境に優しい空調を実現できました。

④ではさらなるエコと節電対策のため、共有部分を中心に省エネで長寿命のLED式の照明に交換しました。

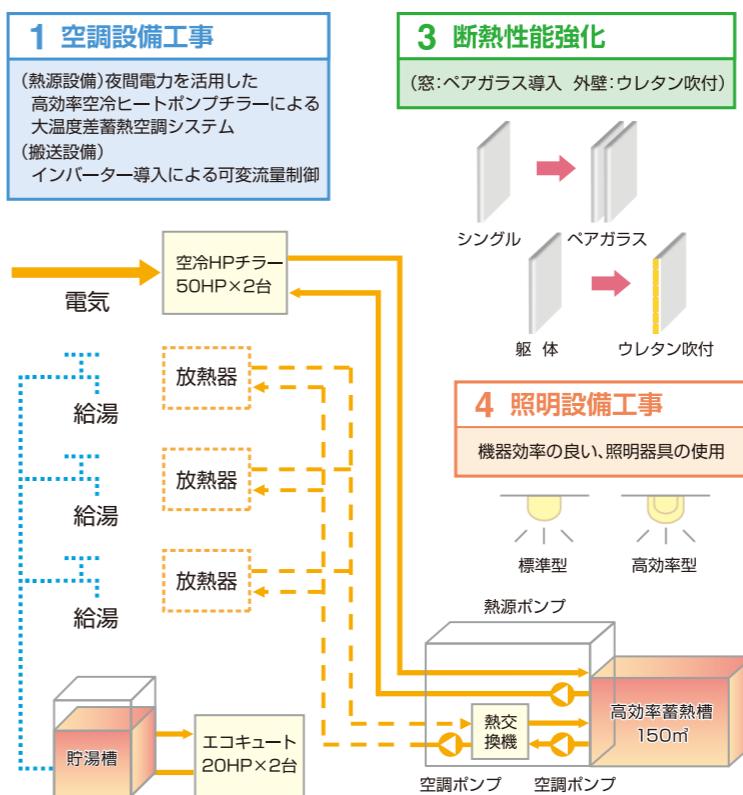
このシステムを導入した要因の一つに、遠隔監視システムによる24時間・365日の監視サポートがあります。ほとんどのエラーについては、桃花林の職員の手を煩わすことなく復旧することができます。



公益財団法人 仁泉会 プライムケア桃花林 省エネ改修工事の概要 (竣工 2011年12月)

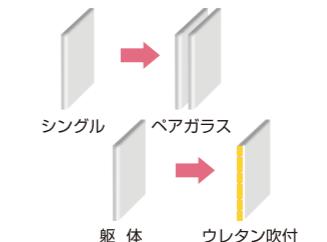
1 空調設備工事

(熱源設備)夜間電力を活用した高効率空冷ヒートポンプチラーによる大温差蓄熱空調システム
(搬送設備)
インバーター導入による可変流量制御



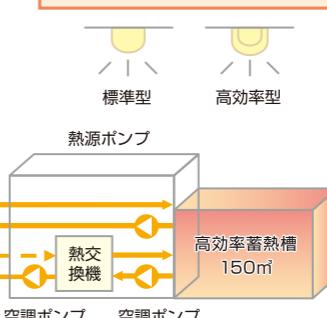
3 断熱性能強化

(窓:ペアガラス導入 外壁:ウレタン吹付)



4 照明設備工事

機器効率の良い、照明器具の使用



2 給湯設備工事

夜間電力を活用した環境に優しいCO₂冷媒 エコキュートによる蓄熱給湯システム

平成22年度建築物省エネ改修緊急支援事業

本事業は、建築物の省エネ改修事業を国土交通省が広く民間事業者等から公募によって募り、予算の範囲内において、整備費等の一部を補助することにより、緊急的に省エネ改修の推進及び関連投資の活性化を図ることを目的とするものです。

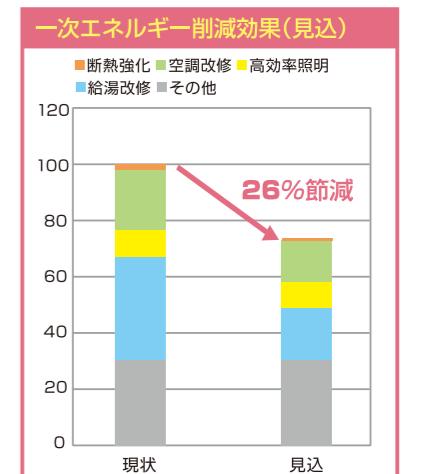
建物全体で26%エネルギーを削減します。

そのような利便性も、職員がきちんと認識することが大切です。説明会を開催し、ほとんどの職員が直接説明を聞き、情報の共有を図りました。新しい設備の導入後は、施設内で騒音ともいえるボイラーの音が消え、静かに時が流れています。穏やかで、優しい環境の下で、高齢者のニーズにあつた介護サービスを行っていきたいと思います。

施設概要
施設名称
所在地
建物概要
延床面積
用途
工期期間
設計者
施工者

システム概要
建築工事
空調熱源
空調蓄熱槽
給湯熱源
給湯蓄熱槽
照明器具工事
遠隔監視
その他

ガラス及び外壁断熱強化工事
高効率大温差蓄熱空調システム
空冷ヒートポンプチラー 50馬力×2基
150m²
自然冷媒ヒートポンプ給湯システム
業務用エコキュート20馬力×2基
12.8m²
一部高効率照明器具に更新
ヤマトTASKPLUS 空調機は既存利用



市街地を外れ山際に住んでいるので、近くに古寺などもあり、由緒ある石碑や石仏などを見かけることが多い。だが無名の石工の手に成った石仏にも、何とも表現しにくい奥ゆかしさと美しさをもっているものもある。古きもの、無名のものにもそれなりの善さと歴史がある。世上では、先の大震災を期に「温古知新：古きをたずねて、新しきを知る」と云う言葉を今更の如く呼びおこし、古文書の災害記録などを引き合いに出して、災害の規模が想定外であったとか評価しているが、すべてが後手に落ちた言い訳としかとれない。山際だから樹木も多く、毛虫の発生がよく目につく。小枝の元に蜘蛛の巣のような吐糸の巣の中に最初に無数の子虫が発生し、暫く群生してやがて成長分散して葉を喰い尽してしまう。

ある学者が苦心して妙な実験をしたそうである。まずは行動的な性格の毛虫のみで集団を形成するようにしたところ、彼等は早期に分散を開始して自然の条件に適合出来ず遂には全滅してしまった。そうである。次ぎに消極的な毛虫ばかりで集団を形成させるようにしたところ、いつまでも集団を解かず、罹病と食物不足で、やはり全滅してしまったそうである。つまり、この集合から分散の行動の中にも「自然の摂理」があるようである。有史以前より自然の摂理に従って、生物にはそれな

りの遺伝子が受け継がれ、人類にも各自、個性があり、民族にもそれなりの民族性が存在し、その調和によって世の中は成り立ってきている歴史がある。

今では専ら「修業」の意味にとられている言葉に、「稽古」がある。これは「古：いにしえを考へる」即ち昔の事実を参考に理義を明らかにすることを指しているのである。「過去のもの」とか「新しいもの」とかで安易に、その是非が決められるべきではない。現代人には知識には有能であっても、自らの信念に自信を欠き、インターネット情報などに惑わされ、付和雷同の行動をとる者さえもいる。ヒマラヤを越えて飛ぶ渡り鳥のリーダーは学理など学んでいない。併し種族保存のため確固たる行動をとつてその使命を全うしているのである。然るに人類は自己の利益のみに終始して自然の摂理に従つて過去からバランス良く保たれてきた環境を破壊し、多くの生物を絶滅させ、今更、危機が自らに及ぶことに気づいて、その改善に取り組み始めている。

併しその環境政策も、ともすれば人間本位の都合により沿った考えに陥り易いがこれを避け、いにしえ即ち過去の自然を考慮に入れ、飽くまで「自然の摂理」にもとづいた環境を再現できる政策をとるべきであると思われる。

（大和環技研 阿部 三郎）



「飯能の石仏」より

訂正
前回掲載「水のこぼれ話」のうち、古歌「家にあれば筍に盛る飯を…」の読み人は「在原業平」ではなく、正しくは「有間皇子（万葉集）」です。
お詫びして訂正いたします。